
中国情報（畜産）

2007年4月3日号

◎2006年における中国の豚肉市場情勢分析

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2006年における中国の豚肉市場情勢の分析結果について発表した。その概要は以下のとおりである。

2006年における中国の豚飼養頭数は若干増加し、出荷の拡大によって豚肉生産量も増加したほか、養豚の収益性も好転した。豚由来製品の貿易も黒字で、食肉製品の黒字額において大きな割合を占めている。年内の豚・豚肉価格は上下が激しかったが、特に下半期は価格が高騰し、12月には豚・豚肉価格が年内最高を記録した。豚／穀物比（豚の販売価格に対する飼料費用の比率を表したもの。豚の販売価格÷穀物の価格で産出）は2005年5月以来、最高値を更新した。

1 国内豚肉生産情勢分析

（1）豚飼養頭数は回復、豚肉生産量も増加

2006年上半期の豚飼養頭数は、前年同期比1.91%減と、最近10年間で初めてマイナスとなった。しかし、下半期になると、持続的な高値に誘われて飼養頭数は速やかに回復し、通年では豚の出荷頭数、飼養頭数とも前年を上回り、これに伴って豚肉生産量も増加した。

（2）豚価格は下降から上昇へ、養豚の収益性は好転

2006年上半期の平均豚／穀物比は5.06となり、1頭当たり80元（約1,216円：1元＝15.2円（2006年末相場））前後の出荷赤字が発生した。第3四半期に入ると、畜産物価格が急速に上昇したことを受けて豚／穀物比が速やかに回復し、9月以降は損益分岐点である5.5を上回り、12月には6.2に達した。

2 豚肉の輸出入情勢分析

2006年における豚由来製品（生鮮冷凍品、豚肉加工品、豚副産物及び生きた豚を含む）の輸出額は、前年同期比3.84%増の9.83億ドル（約1,180億円：1ドル=120円（2006年末相場））となった。そのうち、生鮮冷凍豚肉が40.79%を占め、加工豚肉36.20%、生きた豚22.91%などとなっている。

中国の豚由来製品貿易は、輸出が輸入を大きく上回り、黒字となっている。輸入額は前年同期比10.46%減の1.60億ドル（約192億円）で、そのうち豚副産物が83.86%を占め、生鮮冷凍豚肉が13.29%などとなっている。

（1）生鮮冷凍豚肉は輸出入額とも減少

2006年の中国の生鮮冷凍豚肉輸出量は、前年比7.37%増の26.89万トン、輸出額は同1.26%減の4.01億ドル（481億円）となった。主要輸出相手先は香港特別行政区、朝鮮半島及びベトナムであり、その輸出合計量は20.50万トンと、全体の76.23%を占めている。

一方、生鮮冷凍豚肉の輸入量は前年比23.20%減の2.38万トン、輸入額は26.02%減の2,129.76万ドル（約26億円）となった。主要輸入相手先はカナダとフランスであり、その輸入合計量は2.0万トンで、全体の84.09%を占めている。

（2）豚肉加工品は輸出入とも増加

2006年の中国の豚肉加工品輸出量は、前年比10.53%増の14.99万トン、輸出額は同13.94%増の3.56億ドル（約427億円）となった。主要輸出相手先は日本（7.91万トン）、香港特別区（2.96万トン）及びフィリピン（1.21万トン）で、その輸出合計量は全体の80.61%を占めている。

一方、輸入量は前年比1.01倍（1%増）の67.41トン、輸入額は同47.79%増の31.09万ドル（約3,731万円）で、主要輸入相手先はフランスと日本である。

（3）豚副産物は輸出入量とも増加

2006年の豚副産物輸出量は前年比60.65%増の573.83トン、輸出額は同70.17%増の50.41万ドル（約6,049万円）で、主要輸出相手先はタイである。

輸入量は前年比15.55%増の19.49万トンとなったが、輸入額は同7.75%減の1.34億ドル（約161億円）であった。主要輸入相手先はフランス、米国、カナダであり、その輸入合計量は全体の90.36%を占めている。

（4）生きた豚の輸出は減少

2006年の生きた豚の輸出量は前年比2.40%減の171.96万頭、輸出額は同0.73%減の2.25億ドル（約270億円）となった。主要輸出相手先は香港特別行政区（2.08億ドル

＝約 250 億円) とマカオ特別行政区 (1,740.97 万ドル＝約 21 億円) であった。

3 国内豚肉市場価格情勢分析

- (1) 豚価格は騰落が激しく、近年では歴史的ともいえる最低・最高価格を記録。価格の上下幅は、消費地より生産地が大

農業部畜牧業司の定点調査月報資料分析によると、2006 年の豚 1 kg 当たりの平均価格は、前年比 9.02% 安の 7.20 元 (約 109 円) となった。1～5 月は豚の価格が連続して下降し、5 月は近年で最低の 5.96 元 (約 91 円) となり、1 月に比べ 19.46% 安となった。6 月になると価格が上昇し始め、12 月には年内最高かつ 2004 年 10 月に記録した最高値に次ぐ 9.18 元 (約 140 円) となり、前年同月に比べ 32.09% 高となった。第 4 四半期の豚 1 kg 当たりの平均価格は、前年同期比 23.02% 高の 8.48 元で、通年の平均価格に比べ 18.44% 高となった。

主産地 (湖南省、四川省、河南省、山東省及び河北省) における 2006 年の豚 1 kg 当たりの平均価格は、7.01 元 (約 107 円) となった。1～5 月の価格は連続して下降し、1 月には 7.39 元 (約 112 円) であったものが 5 月には 5.64 元 (約 86 円) となり、2004 年以來の最低価格を記録した。6 月からは価格の上昇が持続し、12 月には前年同月比 42.70% 高の 9.29 元 (約 141 円) に達した。

一方、消費地 (北京市、天津市、上海市、福建省及び広東省) における同年の豚 1 kg 当たりの平均価格は、前年比 10.83% 安の 7.83 元 (約 119 円) となった。1～5 月は価格の下落が続き、5 月には年内最低の 6.49 元 (約 99 円) となった。その後、価格は上昇し、12 月には前年同月比 31.75% 高の 9.96 元 (約 151 円) となった。

全体に、主産地と消費地における豚価格の変動趨勢は基本的に一致しており、1～5 月は下げが連続して 5 月が年内最低となり、6 月以降は価格が速やかに回復し、かつ比較的大幅な上昇を示した。

- (2) 豚肉価格は豚価格より 1 か月遅れで変動、価格の上下幅は豚よりも小

2006 年の豚肉 1 kg 当たりの平均価格は、前年比 7.77% 安の 12.11 元 (約 184 円) となった。6 月の価格は年内最低となり、1 月に比べ 14.88% 安の 10.58 元 (約 161 円) となった。7 月には価格が上昇し始め、12 月には前年同月比 20.50% 高の 14.40 元 (約 219 円) となった。第 4 四半期の豚肉 1 kg 当たりの平均小売価格は、前年同期比 12.70% 高の 13.58 元 (約 206 円) で、通年の平均価格に比べ 13.55% 高となった。豚肉価格と豚価格の趨勢は 1 か月違いで一致しているが、年内の価格の上下幅は、豚肉の方が豚に比べて小さかった。

主産地における平均価格は前年比 8.14% 安の 11.96 元 (約 182 円)、消費地では同 10.84

%安の 12.67 元（約 193 円）となった。主産地と消費地の価格の変動趨勢は一致しているが、価格回復のペースは、生産地が消費地を上回った。

近年の中国における豚由来製品の価格上昇及び価格が高水準で推移している原因は、以下のとおりである。

- 1 上半期に豚及び豚肉の価格が連続して低落し、収益性が低下したことから、養豚企業・農家が生産調整を行い、母豚の飼養頭数が減少したため、豚肉製品の供給量が減少したこと。
- 2 トウモロコシ価格が上昇し、豚の飼料価格の上昇を招いたことから、生産コストが増加したこと。
- 3 伝統的な祝日の食材用途として、豚肉など畜産物の消費が増加したこと。

4 国内の都市部住民の豚肉消費状況分析

国家統計局の資料によると、2006 年における中国の都市部住民の毎月 1 人当たりの豚肉消費量は、前年比 2.61%増の 1.646 kg で、食肉消費量の 55.69%を占めている。

省級行政区別には、広西チワン族自治区が 2.70 kg と全国第 1 位で、次いで広東省が 2.45 kg となった。都市部における毎月 1 人当たりの豚肉消費量が全国平均を下回るのは 18 省級行政区で、新疆ウイグル自治区（0.513 kg/食肉消費に占める割合 20.34%）、寧夏回族自治区（0.666 kg/同 31.35%）、チベット自治区（0.88 kg/同 27.98%）、青海省（0.979 kg/同 35.12%）及び内蒙古自治区（0.942 kg/同 43.06%）の 5 省・自治区では、1 kg を割っている。

食肉消費量に占める豚肉の割合別に見ると、江西省が最大（67.40%/毎月 1 人当たり豚肉消費量 2.01 kg）と最大で、貴州省（67.19%/2.11 kg）、湖北省（65.61%/同 1.67 kg）、雲南省（64.00%/同 1.89 kg）、四川省（61.78%/同 2.29 kg）、湖南省（62.73%/同 2.02 kg）及び福建省（61.78%/同 2.29 kg）では、豚肉の消費割合が 60%を超えて全国平均を上回っている。これに対し、新疆ウイグル自治区、寧夏回族自治区、チベット自治区、青海省などでは 45%を下回っており、特に新疆ウイグル自治区、寧夏回族自治区、チベット自治区など西部では、食習慣や生産構造、宗教などの影響で、牛肉や羊・山羊肉の消費割合が大きいという背景がある。

5 国際豚肉市場分析

（1）価格分析

2006 年の米国における豚部分肉の卸売価格は、前年比 3.19%安となった。ロイン（14～19 ポンド）の卸売価格は同 7.69%安、バラ肉（皮付き、12～14 ポンド）は同 0.73%高、モモ肉（20～23 ポンド）は同 0.55%高、豚副産物（72%新鮮品）は同 12.23%安で

あった。

また、同年第4四半期の豚部分肉卸売価格は前年比0.10%安となった。ロイン（14～19ポンド）は同3.02%安、バラ肉（皮付き、12～14ポンド）は同2.55%安、モモ肉（20～23ポンド）は同7.71%高、豚副産物（72%新鮮品）は同3.85%高であった。

一方、カナダにおける同年の豚肉生産量は、前年比1.5%減の188.5万トンと予測されている。減少の主な理由は、オンタリオ州とケベック州で豚の感染症が発生したことと、米国で豚肉生産量が増加したことによる。2007年のカナダの豚肉生産量は、小幅な減少が予測されている。

同年上半期のカナダの豚肉価格は、前年比19%安となった。主な原因は、カナダの主要輸出国である米国の豚肉生産量が増加し続けたため、1～6月のオンタリオ州の豚肉価格は前年同期比20.48%安、マニトバ州は18.33%安となった。

（2）生産と貿易分析

2006年における世界の豚肉生産量は、前年比3.85%増の1.08億トンと予測されている。ここ数年、穀物価格が比較的低かったこともあり、多くの国で養豚生産が刺激され、豚肉生産量が大幅に増加した。特にブラジル、メキシコ、ベトナムでは増加が著しく、いわゆる発展途上国の豚肉生産量が全世界に占める割合は1%増え、63%まで高まった。また、先進国では、米国の豚肉生産量については安定的に増加した一方、カナダドル高の影響を受け、輸出が主であるカナダの豚肉（毎年、生産量の50%以上を輸出）生産量は、小幅ながら減少した。EUの豚肉生産量は、緩やかに増加した。

2006年の世界の豚肉輸出量は、前年並みの480万トン前後と予測されている。カナダの豚肉産業は、国際市場における競争力がある程度低下し、輸出量は前年比1%増にとどまるものとみられている。これに対し、為替変動が輸出に有利に働いた米国では、1～9月の豚肉輸出量が前年同期比12%増となった。

7 2007年の国際市場展望

為替レート有利な動きを受け、米国の豚肉輸出量は一層増加し、これに刺激されて国内の豚肉生産もさらに増加されるものと推察される。一方、為替の動きは、カナダやEUの輸出には不利な状況で、豚肉の輸出量や生産量の増加幅を抑制する可能性もある。アジアの非伝統市場（旧来の豚肉市場以外の市場）やロシア市場では豚肉需要が旺盛であることに加え、トウモロコシなどの高騰による飼料価格の上昇などから、豚肉の国際市場価格は、若干上昇する可能性があるものと推察される。